

## 令和4年度 府立清明高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 実施段階

学校経営方針(中期経営計画)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「自分を知り、人とかかわり、ポジションをとる人」を育成する。 そのために、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒に自信を返す。</li> <li>2 安心して失敗できる環境づくりを推進する。</li> <li>3 「教え込む教育」から「引き出す教育」への転換を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ICTの積極的な活用により生徒の授業への参加意欲や学習意欲が高まった。今後は生徒が主体性を発揮し、学ぶ楽しさを実感できるための工夫が求められる。</li> <li>2 生徒会や実行委員会を中心とした学校行事への積極的な参画が見られた。今後も主体的・協働的な活動や社会参画の機会の充実を図ることが望ましい。</li> <li>3 魅力推進プロジェクトチームによる改革や各種アンケートの見直し等により、学習者起点による学校の魅力化が進んだ。</li> <li>4 校内体制の確立により、個々の生徒に応じた指導の充実を図ることができた。今後も多様な生徒のニーズや特性に対応すべく、外部連携や校内研修をより発展的に推進していくことが求められる。</li> <li>5 通級による指導が定着しつつあり、今後はあらゆる教育活動のユニバーサルデザイン化が望まれる。</li> <li>6 持続可能な教育活動を実現するため、長時間労働の解消はもとより、「働きやすさ」や「働きがい」を感じつつ、健康や精神的な充足感を得られる職場づくりが求められる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「学ぶ楽しさ」を提供するため、指導と評価の工夫改善や授業のデジタルトランスフォーメーションのための研究・実践を行う。</li> <li>2 サードプレイス(家庭でも学校でもない場所)の活用と探究活動の導入を進め、生徒の主体的・協働的な活動や社会参画の機会を増やす。</li> <li>3 「生徒をリスペクトする」という信念を共有し、内外の評価を活用しつつ、学習者起点による学校の魅力化を図る。</li> <li>4 教育活動のユニバーサルデザイン化に向けた本校ならではの手法を研究・実践する。</li> <li>5 ダイバーシティとワークライフバランスに係る取組を進める。</li> </ol>

領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
組織・運営	教職員間の協働・連携の強化	部長会議・各種会議・研修の開催方法を見直し、教職員がより主体的・協働的に学校運営に参画できるようにする。	B	B	B	会議の事前に情報を共有する、短時間の研修は職員会議と組み合わせる等、会議や研修の開催方法を見直した。校内SNSの利用もさらに促進し、教職員間の情報共有と協働・連携の体制を充実させた。今後、教職員がより主体的に学校運営に参画できるよう工夫を重ねる必要がある。
		教職員間の情報共有と協働・連携の体制を強化し、機動的な学校運営につなげる。	B			
	効率的・効果的な教職員研修	本校の課題解決に対応した研修をタイムリーに計画すると共に、教職員研修のデジタル化・オンデマンド化を推進し、教職員の力量の向上とワークライフバランスの向上との両立を図る。	B	B		基本的な研修は職員会議と組み合わせ、今日的課題は外部と連携する等メリハリのある研修を計画的に実施した。新転任教職員研修はオンデマンドで実施したが、研修の一層のデジタル化が必要である。
学習支援部	授業のあり方の検討	教科主任会議で各教科の取組や困りごとなどを、検討、協議し、「教え込む教育」から「引き出す教育」への転換を図る。	B	B	B	教科主任会議が伝達場になりがちで、建設的な内容の検討、協議を行える機会が少なかった。 公開授業週間では、授業ごとの取組内容が周知できず、テーマに沿った授業を見学した教員が非常に少なかった。公開授業週間中の内容・取組の周知や、その後の研修について改善が必要である。
		公開授業週間で、新しい授業の実践と評価の研究を行い、その後ワークショップを行うことで、全教職員が実践・研究を共有する。	B			
	生徒が安心して登校できる環境整備の推進	ウォームアップ週間やリフレッシュデーの設置、定期考査の廃止など、生徒が安心して登校できる学校作りを推進、実施する。	A	B		生徒が安心して登校できる環境整備については、一定の成果を残すことができた。リフレッシュデーの取組については、生徒自身が参加の方法を選択できるようにしたことで、主体的な取組を引き出した。フレスタ等、生徒が学習内容、方法を選択できる機会を多く設定でき、個別最適な学習が推進されたが、まだ改善の余地が多い。
フレスタ等、生徒が自身で学習方法を選択できる個別最適化を進め、学習者起点の取組の充実を図る。	B					

領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題		
生徒支援部	育てたい人間像に合った生徒指導への変革	生徒指導方針を全教職員で共有し、積極的生徒指導・生徒をリスペクトした生徒指導を行えるようにする。	B	B	生徒指導研修を実施し生徒指導方針を共有することができたが、具体的に積極的生徒指導を働きかけることができなかった。 標準服試行期間、服装・身だしなみ規定ワーキンググループを実施し、従来の服装・身だしなみ規定のあり方について検討した。生徒や保護者とも連携し、規定の見直しを図ることができた。		
		従来の清明高校のルールが、社会や本校の実態にあっているかを検討し、必要に応じて見直しを図る。	A				
	生徒が主体的・協働的に取り組める活動の充実	つばめ祭・つばめ杯・校外学習といった各行事の内容を充実させ、生徒が安心してチャレンジできる環境づくりをする。	A	B			
		担任部と連携して清明サマーキャンプを実施し、多様な体験を通じて自己の成長を目指したい生徒たちが主体的・協働的に活動できる場を提供する。	B	B			
進路支援部	キャリア教育の充実	総合的な探究の時間「みらい(社会的自立支援プログラム)」の時間に、計画的・系統的な進路学習を行うことを通じて、キャリア教育を推進する。	B	B	LHRの時間を中心に、生徒の進路希望に応じた進路学習を計画的に実施することができた。 社会参画の機会として、春期インターンシップ、児童館でのボランティア活動、佛教大学通信課程受講に加えて、幼稚園教諭、保育士、看護師等の体験を案内し、参加した生徒には貴重な経験となった。受け入れ事業所の確保及び実施期間の確保等は課題である。		
		社会的・職業的自立に向け、インターンシップやボランティア活動、高大連携など、外部機関と連携を行い、生徒の主体的な社会参画の機会を設定する。	B				
	個別最適化とダイバーシティに係る取組の推進	生徒のニーズに応じた、進学先への継続した移行支援や、適切な就労先の選択に向けた支援を充実する。	B	B			
		進路実現に向けて、生徒の進路希望に応じた学習方法や学習内容の個別最適化を進める取り組みを充実する。	B				
教育相談部	特別支援教育の充実	多様な生徒のニーズや特性に対応すべく、教育活動のユニバーサルデザイン化に向けての手法を研究・実践していく。	B	B	生徒自らが学びやすく工夫できる方法を提示するなど、継続しやすい合理的配慮をおこなった。教育活動のユニバーサルデザイン化に向けて、授業の工夫や評価について全校体制の構築が課題である。		
	教育相談の充実	生徒情報の共有の仕方を工夫し、全教職員で課題の早期発見に努め、関係各所と連携し、生徒を多面的に支援する。	A	A		B	生徒情報の共有方法を継続的に改善でき、教育相談会議等でも活用可能となった。担任と教育相談部他の教職員、SC等と綿密に連携をとり、生徒や保護者に細やかな支援ができた。欠席数等の情報を共有し、生徒の困り感に早期に対応した。連絡の取りにくい生徒・保護者等への支援策を検討していく必要がある。
	健康教育の充実	感染症予防など、自己の健康の保持増進について、生徒に正しい知識を身につけさせ、適切に対応できるようにさせる。	A	A		生徒が実際に行動しようと思える情報の伝え方や広報物の作成を行った。また、感染症だけではなく、心身の不調に関し、個別の保健指導も積極的にに行った。	
総務企画部	広報活動の充実	生徒主体のオープンキャンパスやオンライン相談会など、清明高校の良さを前面に押し出し、様々な事情で学校に登校できていない生徒にも清明高校の魅力を発信できるような説明会を実施する。	A	A	オンライン個別相談会、オープンキャンパス、本校での個別相談会を実施し、問題なく運営することができた。参加者評価も高かった。 広報については生徒ボランティアもTwitterで発信し、好評であった。学校説明はオンデマンド動画として常時閲覧できるようにし、再生回数も1000回を超えた。今後もオンデマンド動画やVRの活用、マスコットキャラクターの活用などで、リアルな学校の広報が必要である。		
		YouTube配信やTwitter、広報のオンデマンド化など、より手軽・身近に清明高校を紹介する広報活動・取組を企画し、実践する。	A				
	ICTを活用した授業改善	AI学習アプリやVRなど、ICTを用いたさらなる教育方法を研究・実践し、授業のデジタルトランスフォーメーションを図る。満足度アンケートでICTを活用した授業について、満足度90%以上を目指す。	B	B		満足度アンケートの結果は肯定が92%で目標を達成したが、全教員の授業のDX化への研究・実践は不十分であった。次年度は、授業のDX化に向けて積極的に取り組む必要がある。	
	図書館の効果的な活用	生徒の探究学習を支援するとともに、学校内でのサードプレイスとしての機能を高める。	B	B		授業利用時間数が昨年度より倍増し、利用生徒数も増加した。	

領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
F担任部 入学年次	「学校に来る」という目標のもと継続した登校により、清明高校という場を社会的自立の一步としていく。	担任・副担任で、家庭や外部機関と連携し、生徒状況の把握に努め、生徒一人ひとりが過ごしやすく安心して登校できる環境づくりを行う。	B	B	<p>高校入学という環境の変化を踏まえ、生徒が一步踏み出すための支援だけでなく、基本的な生活習慣や挨拶・身だしなみ等について一斉及び個別に指導の機会を設け、一定身に付けさせることができた。一方で家庭やSC、外部機関との連携がありながらも、多様な背景から指導や支援が困難なケースがあった。生徒の家庭や生育環境を踏まえた支援が必要である。</p> <p>授業や特別活動を通して、自分を肯定的に捉え、学校が1つの居場所と生徒が感じられるようになった。特に、校外学習やつばめ祭等の学校行事では、生徒が互いに助け合う姿や主体的・積極的に取り組む姿が多く見られた。一方で、授業や学校行事に消極的な生徒もおり、教科担当者やその他分掌とさらなる連携が必要である。</p>
		基本的な生活習慣の確立や、挨拶・身だしなみの指導を通して社会生活の基礎が身に付くようにする。	B		
	自分を肯定的に捉えられる機会を提供する。	教科担当者と連携し、ICT機器等を活用し、出席を促したり、提出物の連絡をしたりすることで、登録した単位修得を可能にする。	B	B	
		総合的な探究の時間や特別活動を通して、生徒が様々な活動の機会に主体的・積極的に参加することの喜びを感じられるようにする。	B		
M担任部 中間年次	清明高校の中で人と関れるようにする支援	HRや学校行事、総合的な探究の時間を活用して様々な人の価値観に触れ、多様性を認め合える雰囲気を作る。	B	B	<p>多くの生徒がHRや学校行事、総合的な探究の時間などに前向きに参加することができた。つばめ祭では、様々な年代の方楽しんでもらえる取り組みをそれぞれのクラスが考え、実行することができた。一方で、集団に入ることが苦手な生徒や、学校行事などを休みがちな生徒もあり、指導や支援の工夫が必要である。</p> <p>総合的な探究の時間で「興味があることをより深く調べる校外学習」と「北区をよりよくするための方策を考える」という2つの課題への取組を通して、興味があることをきっかけに他者と関わり、思考・表現する力を育成した。また、制服・身だしなみ規定ワーキンググループ等に参加する生徒もおり、清明高校の魅力と課題について主体的・協働的に活動できた。一方で、発表等への苦手意識が強い生徒もあり、生徒の多様性に配慮した指導の工夫が必要である。</p>
		学校行事の実行委員会への積極的な参加を促し、他学年や地域の人と関わる機会を作る。	B		
	清明高校の中でポジションを取れるようにする支援	自分の好きなことをより深く、同じ話題でつながれる人同士をつないでいく。好きなものをより深めていく中で清明高校での自分の居場所を見つけさせ、力を発揮させる。	B	B	
		総合的な探究の時間を通して自分ができ、学校ができたことを考える中で清明高校の魅力と課題について考え、よりよい学校にするための方策を提案できる場を設定する。	C		
S担任部 中間年次	社会的自立に向けた支援	担任・副担任を中心とした教員や他職種等と家庭の連携・協働による多面的な指導を推進し、生徒一人ひとりが安心して学習活動に参加できるよう、自己及び他者を認め、尊重し合える年次経営をする。	B	B	<p>総合的な探究の時間やリフレッシュデー等の学校行事をとおして、自己の発信する力や他者の多様な側面に気づく力を養うことができ、互いを理解する機会となった。しかし、行事参加に偏りがあり、主体的・積極的に活動できる動機付け等、更なる工夫が必要である。また、生徒が持つ課題について、家庭だけでなく医療や福祉と連携を図り自立につなげるため対応した。</p> <p>学校行事やLHRのグループ活動の中で、生徒一人ひとりが持つ強みを活かしながら、チャレンジを促し、応援し、振り返る(評価)ことで自信につなげることができた。登校が困難な生徒については、目標実現に向けて個に応じた方法で支援を試みたが、課題の残る生徒もいるため、今後の対応を検討する必要がある。</p>
		総合的な探究の時間や特別活動等を通じて、社会生活に求められる意欲や態度の醸成に努める。	B		
	生徒一人ひとりの目標実現にむけた個別支援	生徒の持つ強み、取組への姿勢や過程を含めた成果等を意識的に評価し、客観的な自己理解や自己肯定感につなげる。	B	B	
		学校行事などをとおして、学級間や年次間などで多様な価値観に触れる場面を設定し、人と関わる力の充実をはかる。	B		
G担任部 卒業年次	個々の生徒が自己理解を深め、ライフプランに基づいた希望進路が実現できるように指導・支援する。	HR活動、総合的な探究の時間、学校行事等の機会を通じて、自己の適性にあった取組方法や役割を実践的に確認したり、調整したりする中で、将来を見据える力を育成する。	B	B	<p>学校行事等は、幅広い活動範囲や役割分担等の設定、生徒一人ひとりの興味関心、得意分野等が発揮できるような枠組み等を設定をしたことで、自分らしさを生かした活動ができた生徒も多く、事後アンケート等の評価も高かった。進路は、生徒の意向を尊重しつつ、家庭や校内の関係分掌、大学、福祉等との連携を図りながら個に応じた指導を進め、生徒自身の納得のいく進路決定につながられた。</p> <p>学校行事等では、生徒が他者の良さを認めながら協働する活動につなげることができた。また、学校行事や進路指導等の場面を活用し、社会生活で要求される諸問題等に対処するためのスキル活用の機会が設定できた。しかし、活動機会として十分な時間数を確保し、設定・実施することはできなかった。</p>
		家庭や校内、関係機関等との連携を通じて、共通理解と協働により、生徒への指導・支援を行い、進路実現につなげる。	B		
	多様性の受容や他者との協働など、社会のニーズに応じた自立を果たすために必要な資質、能力の伸長に努める。	HR活動、総合的な探究の時間、学校行事等において、他者を認めながら協働するといった活動の機会を設ける。	B	B	
		学校内外のリソースを活用し、ライフスキルの活用や今日の課題解決に向けた実践ができる機会を提供する。	C		

領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題	
事務部	生徒が学ぶ楽しさを実感し、また学校生活の中で、自信と社会的実践力を身に付けられるような教育環境の整備	教科分掌と連携し、必要な教育環境を整備、また時代に対応したICT機器の整備更新を行う。	B	B	B	各分掌、教科と連携しながら必要な物品の整備を行った。撮影室用のICT機器整備及び教室のプロジェクター2教室分の更新を実施した。就学支援金等の制度の生徒保護者等への周知が徹底しておらず、提出が遅延した。周知方法等を見直すとともに各年次と連携し、生徒保護者が不利益を受けないよう支援を適切に実施していく。	
		生徒が安心して学校生活を送れるよう就学支援金等及びBYOD導入に伴う支援制度による支援を適切に実施	B				
	ワークライフバランスを実践するための働きやすい職場環境整備の推進	業務負担を軽減できる方策を検討する	B	B			業務軽減につながるよう、繁忙期が異なる部内の業務について相互に情報と進捗状況を共有し、補助できるような体制にしていく。各教室及び執務室のサーキュレーター設置、渡り廊下の窓ガラスへの半透明フィルム貼付、生徒達が集える新たな場所としての「たまり場」の整備等、安心・安全な校内環境整備が実現できた。
		生徒・教職員からの声も聞きとり又要望に応えられるよう柔軟な対応をめざし教職員がより働きやすい職場環境づくりの推進	B				

(評価の基準 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった)

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制服・身だしなみ規定を、生徒達がよく話し合ってきた過程が良い。時代と共に規定や価値観の在り方が変わるだろうから、次年度以降にも見直す機会を残したのもよかった。</li> <li>・Twitterを使用した学校広報では、教職員だけでなく生徒ボランティアも活躍しており、学校の「今」がわかりやすいだけでなく、本校の教育活動の方向性も明示できている。</li> <li>・進路支援について、生徒と保護者の満足度が異なる点について、今後の対策が期待される。</li> <li>・多様な校内外のボランティア活動が活発に展開されており、地域との連携も進んでいる。今後、地域連携を一層進めて欲しい。</li> <li>・各分掌が年度当初の学校経営計画に沿って、十分成果を出せていると思われる。今後も、子ども達に「学ぶ楽しさ」を実感させて欲しい。</li> </ul>
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中期経営計画に沿ってここ3年間で進めてきた改革であるが、さらなる工夫改善によって発展・推進させていく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大の心配が低減するため、より体験的・協働的な学びや、地域連携、校外実習等を推進し、リアルな学びの機会も充実させていく。</li> <li>・ダイバーシティ&amp;インクルージョンのさらなる充実を図る。</li> </ul>
---------------	--